

平成27年度 学校評価シート（高知県立日高養護学校）

平成28年3月18日

1 目指す学校像

- ・児童生徒が楽しく学べ、保護者が安心して子どもをあずけられる学校。
- ・組織としての明確な目標をすべての教職員が共有し、目標達成に向けて着実に前進する学校。

評価の基準  
 A: 設定した目標を十分達成できた。  
 B: 設定した目標に対し、ほぼ達成でき、次年度の課題が明確になった。  
 C: 設定した目標に対し、成果が不十分であり、課題が残った。  
 D: 設定した目標に対し、ほとんど達成できなかった。

2 本年度の教育目標

- ・児童生徒一人一人の能力・適性等に応じた教育活動を充実する。
- ・児童生徒の自立する力をつけ、社会参加に向けての適応力を高める。
- ・家庭や地域、関係機関と連携し、安全で安心できる学校づくりを進める。

評価者：地域の関係者及び保護者等

3 評価

項目	昨年度の課題	本年度の目標	目標達成のための手だて	自己評価	外部評価	今後の課題	
専門性の向上 (中期目標Ⅰ)	・本校の作業学習の基本を構築し授業改善及び作業種の見直しを通して授業の質を高める。	【教科等を合わせた指導】 ・作業学習における作業種の決定	・中学部、高等部ともに、昨年度検討してきた改善点と今後の方向性を基に取り組む ・キャリア教育充実事業（特別支援教育化事業）を活用し、外部講師に助言をいただきながら現在の作業学習について検討する。 ・中学部高等部の系統性のある作業学習 ・地域とつながりのある作業学習 ・年間3回の授業研究実施予定	・昨年度検討してきた改善点についてはそれぞれの作業種が具体策を考え改善を図った。 ・外部講師にすべての作業種を参観していただき、作業学習へのアドバイスをいただいた。作業内容や支援のあり方等、新たな改善に取り組んでいる。 ・全体としては、学習の単元化や時間割表の見直し改善など新たな課題が明確になった。	B	・時間割表を帯状にすることは、生徒にとっては気持ちの切り替えがしやすいのではないか。 ・作業学習は働く力に直接つながる学習であるので是非改善に向けた取組を継続するべきである。	・教育課程、時間割表の見直し等を行い作業学習の基本の取組の向上を図る。 ・各作業種は、講師の助言を受け改善点に取り組む、授業の質を高める。
	・タブレット端末の整備の拡充 ・生徒の実態に即したタブレット端末を活用した教材教具の研究 ・ICTを活用した授業研究 ・教職員における教材教具の更なる研修	【教材教具の工夫】 ・タブレット端末を活用した指導及び教材教具の開発（展開） ・外部講師を招聘してのICT研修 ・共有フォルダを活用した教材教具の共有の強化 ・教材教具の保管場所の整備	・教材用タブレット端末10台、ルーター2台追加購入 ・現在活用している学習の手順書を中心に各学部・舎で教材教具の発表 ・タブレット端末を活用した各学部、寄宿舎の教材教具をカテゴリーに分けて、教材教具の共有化を図る ・夏季休業中に講師を招聘し、ICT活用に関する教職員の研修を実施	・端末は計画通り整備できた。 ・ICTを活用した教材教具については、情報を共有するため、活用事例等を記載したものを共有フォルダにまとめた。 ・年1回の教材発表会で他学部の具体的な実践を知ることができた。 ・外部講師を招聘しての校内研修では、基本的な知識を学んだ。 ・県教育センターに研究生を派遣し、研究を深めることができた。	B	・参観日など保護者の目にふれる機会をとらえて生徒と一緒に触れる場を作るなどPRをもっと行うべきである。	・タブレット端末を活用した教材教具の更なる開発と授業研究の実施。 ・就学奨励費で購入したタブレット端末をネットにつなげることができるように対策を働きかける。
	・授業評価を行い、児童生徒の実態に即した研究授業の充実 ・教科等を合わせた授業の充実 ・授業評価の在り方	【授業力の向上】 ・外部講師を招聘（全体への講話・研究授業の参観・助言） ・各学部で年間1回以上、年次研修者の代表1名が教科等を合わせた指導を中心とした研究授業の実施と上記外部講師による助言（ビデオ撮影）	・授業力の向上について全体で校内研修会を実施10月 講師：尾崎雄三（植草大学） 内容 小学部生活単元学習の授業参観と研究協議 ・各学部において年間1回の授業研究の実施	・中学部、高等部についてはビデオを活用した研究授業、協議に年間1回以上取り組むことができた。 ・小学部については外部講師を招き校内研を実施し、キャリア教育の視点から多くの助言をいただいた。	B	・各学部での取り組みは、しっかりできている。しかし、アンケート等から各学部の系統性が見えにくいことは、各学部間の全体的なプランが見えていないのではないかと。	・教科等を合わせた指導の研究。 ・各学部間で生徒の将来を見通したキャリア教育の構築。

項目	昨年度の課題	本年度の目標	目標達成のための手だて	自己評価	外部評価	今後の課題		
小・中・高・舎の一貫した教育(中期目標Ⅱ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>全生徒の基本情報の打ち込み</li> <li>有効なグループウェアの活用</li> </ul>	<b>【校内LANの有効活用】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>グループウェアの活用促進(全面活用)</li> <li>基本情報に基づいた各種様式の改善(完成)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループウェア活用促進に関する操作方法について管理職及び主事が研修</li> <li>基本情報を打ち込み完了</li> <li>各種様式の完成。</li> <li>本年度は現在の様式に打ち込み、来年度より新しい様式に打ち込む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループウェアの活用については、検討してきたが活用にはいたっていない。</li> <li>各種様式については、現在の様式を活用しながら問題点について今後検討し作成する。</li> <li>基本情報の中で、使用頻度の高い共通項目については、エクセルシートにまとめることができた。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>事務処理の簡素化ができればよいのではないかと。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校におけるグループウェアの有効な活用方法を見出す。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>寄宿舎生を対象とした学級担任との懇談の定着</li> <li>情報共有の徹底</li> </ul>	<b>【情報共有の校内体制】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>全寄宿舎生を対象に年間1回学舎懇談会を実施(定着)</li> <li>配慮が必要な児童生徒における情報共有体制(定着)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>配慮を必要とする児童生徒の校内周知会5月8日(金)実施</li> <li>全寄宿舎生を対象に学部主事、寄宿舎の担当が連絡調整を行い夏休み中に実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全寄宿舎生を対象とした学舎懇談会を定着させた。教職員の感想も肯定的で児童生徒理解に大いに役立った。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者をもっと協力していかなければならない部分もあると感じている。</li> <li>教員、寄宿舎で情報を共有し次の手立てを考えていく事が大切である。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>取組の定着。</li> <li>情報共有の徹底。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>日高養護学校キャリア発達段階表を活用した授業づくりと継続的な取り組みの有効活用</li> </ul>	<b>【発達段階表の活用促進】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>学部間の引き継ぎにおける活用(定着)</li> <li>現在の試案の改善(完了)</li> <li>学部研の中で1学期と3学期に日高養護学校キャリア教育発達段階表を活用して児童生徒のキャリア発達を確認し、活用の促進を図る体制の運用(継続)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育センターの若年教員研修や各学部で実施する授業研修において日高養護学校発達段階表を活用した学習指導案の作成</li> <li>全寄宿舎生を対象とした学舎懇談において発達段階表を活用。</li> <li>学部研において児童生徒のキャリア発達を確認。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学部で7月と3月にキャリア教育発達段階表を活用して児童生徒のキャリア発達を確認した。</li> <li>指導案を作成する際に、単元において育てたいキャリア発達の力を確認することができた。</li> <li>各学部間の引き継ぎとしてパソコン内に保存する仕組みができた。</li> <li>2012 試案を改善し 2015 版を作成した。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>日高養護学校キャリア発達段階表を各学部間の引き継ぎに活用する事で、子どもたちの将来を見据えた指導につなげることができている。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>日高養護学校キャリア発達段階表を活用した引き継ぎの定着。</li> <li>児童生徒のキャリア発達の確認。</li> </ul>
キャリア教育の充実(中期目標Ⅲ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校安全計画をもとに児童生徒の年間指導計画への位置づけ</li> <li>児童生徒のヘルプカードの作成実施</li> </ul>	<b>【防災教育】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>地震津波に関する年間計画を作成し、児童生徒の年間指導計画への位置付け(完了)</li> <li>火災に関する年間計画を作成し、児童生徒の年間指導計画への位置付け(着手)</li> <li>指導略案の作成集積と教科研究センターへの提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年策定した日高養護学校安全計画に則り、全体では年間3回の地震津波に関する計画を実施。</li> <li>各学部、または、学級において毎月地震に関する訓練を実施し、児童生徒の年間指導計画に組み入れる。</li> <li>ヘルプカードの完全活用。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒にヘルプカードを作成し活用を開始した。</li> <li>学校安全計画の作成を完了し、全体で年間5回、地震や火災の避難訓練を実施した。</li> <li>寄宿舎においても時間帯や内容を変えて3回実施した。</li> <li>指導略案を作成し教科センターへ提供した。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難場所でもあることから中央西福祉保健所や日高村と、防災訓練等のスケジュールを組んで訓練する必要がある。</li> <li>バス通学の途上での避難場所について検討する必要がある。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校安全計画に則った防災の計画。</li> <li>地域と取り組む防災訓練の実施。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度のアンケートを基に本校の性に関する取組の骨子のまとめ</li> <li>保護者、学校、地域及び外部専門家との連携</li> </ul>	<b>【性に関する教育】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>外部の専門家を招聘して年間指導計画と実践に対するアドバイス</li> <li>指導略案の作成集積と教科研究センターへの提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スクールプランニング事業を活用して県内の大学講師を招き、年間6回の性に関する授業と研究協議の実施。</li> <li>校内研修等を通して、本校の性に関する指導について系統性のある取り組みを見出す。</li> <li>講師を招聘しての寄宿舎の性の支援の実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部講師を招聘し、学校全体で本校の性に関する教育の系統性について研修した。</li> <li>性に関する教育の基本方針を策定した。</li> <li>小学部・中学部・高等部・寄宿舎の系統性のある指導に向け、年間指導計画と、単元ごとの目標と評価を作成した。全校への校内研修を実施した。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本方針、年間指導計画単元の目標、評価等、大変参考になる。この計画があることで同じ目標に向かって進むことができていると、素晴らしいことだと思う。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学部、中学部、高等部、寄宿舎の一貫した指導の実践。</li> <li>年間指導計画に沿った単元ごとの目標と評価の実施。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員の研修</li> <li>情報モラル教育の年間計画の作成(実施)</li> <li>外部専門家を招聘し正しい知識の研修</li> </ul>	<b>【情報モラル教育】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒を対象とした外部講師による講話</li> <li>指導略案を作成し年間2回の授業の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特に高等部各学年で生徒を対象とした教員による携帯電話の使いかたの実施。</li> <li>生徒を対象とした外部講師による情報モラル研修</li> <li>教職員を対象とした情報モラルの研修会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>e ネットキャラバンの外部講師を招いて生徒への授業を実施した。</li> <li>高等部・中学部は学年ごとに取組を行った。</li> <li>小学部は情報モラルの基礎的なことについて取り組んだ。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>節度のある利用など、生活全般について考える。</li> <li>ノーメディアデーなど、家族全体で取り組んだりすることも良いのではないかと。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員を対象とした情報モラルの研修。</li> <li>生徒を対象にした情報モラル研修の実施。</li> </ul>

